

**基礎を固めるクラス** 偏差値のめやす 40～50程度 主な学年のめやす: 高1後半～高2

この紙のゴール: 300～450語の初見の論説文を、段落の働きを追いながら読み、要点を自分のことばで書く / 目安15分(本文+設問)。本文はこの教材のための書き下ろし(初見用)です。

[1] Your class has to choose one thing to do at the school festival. Three ideas are on the board. Everyone writes down one, you count the papers, and the idea with the most votes wins. Nobody argued, and nobody was left out. That feels fair, and in one sense it is.

[2] Counting votes is a good method, and it is better than the ways people used before it. Nobody has to shout. A quiet student counts for exactly as much as a loud one. When the numbers are clear, the class can move on without a fight. A decision reached this way can be explained to the people who lost it. These are real advantages, and they should not be waved away.

[3] But look at what happens when three ideas are on the board instead of two. Suppose eleven students want a play, ten want a concert, and nine want a cafe. The play wins with eleven. Eleven is the largest number on the board, and it is still a long way from most of the class. Yet nineteen students, far more than half the class, wanted something other than the play.

[4] Now imagine that one of the two music ideas had never been written on the board. Those students would have joined the other one, and the result would have changed. Nobody voted differently. What changed was the list.

[5] So a vote does not simply reveal what a group wants. It gives one answer out of several that the same group could have produced, and which answer you get depends on the rule you counted with.

[6] Before the next vote in your class, spend one minute on a different question. Not "what shall we choose?" but "how shall we count?" It takes a minute, and it belongs at the start. Deciding that afterwards is too late.

〔語注〕 vote=票・投票する advantage=よい点・利点 wave away=軽くあつかう・退ける reveal=明らかにする

本文には自由に書き込んでください。つながりの語(But / Yet / however)に印をつけ、段落の左に「認める／切り返す／例／主張／提案」とメモすると、大問Iがそのまま解けます。

## 多数で決めると、何が決まるのか 設問

年 組 番 名前 \_\_\_\_\_

本文（1枚目）を見ながら答えてください。

**大問1 段落の働き** それぞれの段落が、この文章の中でどんな働きをしているかを選ぼう。

(1) [2]段落の働きとして、いちばん合うものは？ 思考・判断・表現 答え（ ）

3点

- ア [1]段落の具体例を、くわしく挙げている
- イ 筆者の主張を、はじめて言い切っている
- ウ 反対の立場にも言い分があることを、いったん認めている
- エ 読者にしてほしいことを、提案している

(2) 筆者が「でも、そうではない」と切り返しはじめるのは、どの段落の最初の文？ 思考・判断・表現 答え 3点  
（ ）

- ア [2]段落
- イ [3]段落
- ウ [4]段落
- エ [5]段落

**大問2 内容の読み取り** 本文の内容に合うものを選ぼう。

(1) 多数決のよい点として、本文が挙げているのは？ 知識・技能 答え（ ）

3点

- ア どんな場合でも、全員が納得する結果になる
- イ 声の大きい人と静かな人が同じ重みになる
- ウ 話し合いの時間を完全になくすことができる
- エ 多数派の意見がいちばん正しいと分かる

(2) 11人・10人・9人で決めたとき、本文が問題にしているのは何か。 思考・判断・表現 答え（ ） 3点

- ア 劇に投票した人がいちばん多かったこと
- イ 半分より多い19人が、劇以外を選んでしたこと
- ウ 投票した人の数が奇数だったこと
- エ コンサートとカフェの差が1票だったこと

(3) 音楽の案が一つしかなかったら、どうなったと本文は述べているか。 知識・技能 答え（ ） 3点

- ア 結果は同じままだったろう
- イ 投票そのものができなかったらう
- ウ 結果は変わっていただろう
- エ 劇の票がさらに増えていただろう

**大問3 書いて答える** 本文をもとに、日本語で書こう。

(1) 筆者が投票の前にすすめている問いを、20字以内で書きなさい。 思考・判断・表現 5点

多数で決めると、何が決まるのか（基礎） | 解答と採点

解答 選択問題

| 大問1 段落の働き   |   |                                                                                                        |
|-------------|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1)         | ウ | Counting votes is a good method / These are real advantages で、多数決の利点をいったん認めている。筆者は多数決を否定していない。エは[6]段落。 |
| (2)         | イ | But look at what happens when three ideas are on the board instead of two. が転換点。                       |
| 大問2 内容の読み取り |   |                                                                                                        |
| (1)         | イ | [2]段落 A quiet student counts for exactly as much as a loud one。                                        |
| (2)         | イ | [3]段落 Yet nineteen students, far more than half the class, wanted something other than the play。       |
| (3)         | ウ | [4]段落 the result would have changed。                                                                   |

記述の採点 模範解答と部分点の刻み

刻みは答案を見る前に配点を決めておくための表です。採点しながら基準を作ると、最初の10枚と最後の10枚で線が動きます。

大問3(1) 筆者が投票の前にすすめている問いを、20字以内で書きなさい。5点

| どう数えるかを先に決める。 |                         |
|---------------|-------------------------|
| 配点            | その点を与える条件               |
| 3点            | 「どう数えるか・どの方式か」にあたる内容がある |
| 2点            | 「先に・前に」という順序に触れている      |

「何を選ぶかをよく考える」と書いた答案は0点。筆者が退けているほうの問い (what shall we choose?) をそのまま書いている。



多数で決めると、何が決まるのか（基礎） | 出題のねらい

出題のねらい 定期テストに移すときの観点マップ

投票という身近な制度を題材に、「手続きが結果を作る」という論の型を読ませます。数の話が出てくるので、[4]段落の具体例（票が割れる）を正確に追えているかで差がつきます。生徒は「多数決は不公平だ」という結論を先取りしがちですが、筆者は多数決を否定していません—大問1(1)と要約が同じ誤りを別の形で測ります。読んだあとは、学級の議題をどの方式で決めるかを班で選ばせると、そのままミニディベートになります。

| 型          | 観点       | テストでの使い方                   |
|------------|----------|----------------------------|
| 段落の働き      | 思考・判断・表現 | 論の展開の読解。制度の否定と手続きの指摘を読み分ける |
| 転換点の特定     | 思考・判断・表現 | 譲歩から主張への折り返しを1文で指させるか      |
| 内容一致／下線部和訳 | 知識・技能    | 基礎・標準は選択、発展は和訳。数の説明を正確に読む  |
| 内容説明（記述）   | 思考・判断・表現 | 具体例のしくみを自分のことばで説明できるか      |
| 要約（20語）    | 思考・判断・表現 | 発展版のみ。譲歩・主張・結びの3要素で採点する    |

大問1は3版とも同じ問いです（段落が論の中でどう働いているか）。内容が取れているかではなく、論の運びが見えているかを測ります。

3つの版の使い分け

同じ英文の骨格（段落構成・論の運び）を保ったまま、語数・語彙・答え方を上げてあります（基礎300語=選んで答える＋日本語20字／標準380語=選択肢が英語＋日本語40字×2／発展450語=下線部和訳2・内容説明80字・英語20語要約の全問記述）。①クラスの帯に合わせて選ぶ ②同じクラス内で配り分ける ③基礎→標準→発展と学期をまたいで同じ英文に戻る—の3通りが使えます。③は「同じ話がどこまで読めるようになったか」を生徒自身が測れるので、学期末・学年末の振り返りに向きます。なお大問2以降は正解の記号を版ごとにずらしてあります（配り分けのときの写し合い対策）。大問1だけは3版とも同じ問い・同じ記号です—ここは測る力をそろえるための共通の骨格なので、あえて変えていません。